

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

## . 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

## . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

## . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

## . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

項目数

11

2

1

3

3

2

2

1

1

6

1

2

1

2

11

9

2

**合計 30**

事業所番号	4673300077
法人名	有限会社 あおぞら
事業所名	グループホーム あおぞら
訪問調査日	平成 19年 7月 24日
評価確定日	平成 19年 11月 6日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月 30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4673300077
法人名	有限会社 あおぞら
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	鹿児島県日置市日吉町日置478番地 (電話)099-292-2034
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成19年7月24日

【情報提供票より】(19年 6月 19日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 15 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 7人, 非常勤 9人, 常勤換算 人

## (2) 建物概要

建物構造	木 造り 1階建ての 1階 ~ 階部分
------	------------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	12,600 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	8 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	日置市市民病院
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは日置地区の中央に位置し、市役所支所・小中学校、市民病院等公共施設の近くでありながら静かな住環境にも恵まれた地域に立地している。家族経営の良さをいかに発揮し、経営者・管理者・職員の役割分担が明確であり、チームワークが理念実現に向け実効あるものになっている。利用者の心身の状況を迅速、確実に把握し、心配りをもってケアがなされている。押し付けでない伸びやかな雰囲気での運営はこのホームの特徴である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前年度の外部評価を受けて、緊急時の対応として、居間からの外階段の位置にスロープの設置や利用者の衛生面への配慮として洗面所でのペーパータオルの利用など、改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	職員全員で自己評価に取り組み、評価の内容を前向きに考え、サービスの質の向上に活かしていくとする姿勢が伺える。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	現在7回目の運営推進会議が実施されている。会議では利用者の健康状態、活動報告、認知症ケアへの理解について話し合われている。外部評価の結果も報告され、意見や要望についてはスタッフ会議で検討されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	意見箱が設置されている。家族の相談・要望は、申し送りノートや相談ノートに記録され、職員全員で情報を共有して対応している。苦情についても記録され、職員で話し合い運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域の小学校との交流会や中学校のボランティアを受け入れるなど、子供たちとふれあう機会をつくっている。地域の老人会や文化祭にも招待され、参加している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとしての理念をつくりあげている。開設時に管理者と職員で話し合い、独自の理念をつくりあげている。		今後は地域密着型サービスとしての役割を目指した内容も検討課題である。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼で理念を唱和することで、意識を高めている。職員一人ひとりが理念を大切に、お互いに声かけをしながら日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校との交流会や中学校のボランティアを受け入れるなど、地域の子供たちとふれあう機会をつくっている。老人会や文化祭にも招待され、参加している。		
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果は運営推進会議、家族会で報告されている。評価の結果も閲覧できるようにしている。前年度の評価をうけて、利用者の安全面を考え階段の横にスロープの設置や洗面所のペーパータオルの利用などの改善に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、公民館長、民生委員、市の担当者、職員の出席のもと運営推進会議が実施されている。会議では、利用者の健康状態、日々の活動報告、認知症ケアへの理解について話し合われている。外部評価の結果も報告され、意見・要望についてはスタッフ会議で検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と連絡をとり、ホームの考え方や現状を伝え、課題についても相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られる家族には暮らしぶりや金銭出納帳について報告している。面会に来られない方には月1回文書で報告している。		利用者の通帳、印鑑などを預かっている場合は、預り証を交わすなど、金銭管理についてさらなる検討が望まれる。地域福祉権利擁護に関する制度についても必要な方には活用できるような支援が必要である。関係機関にホームの様子や活動などをホーム便りなどで報告することも期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置がある。家族の相談・要望は申し送りノートや相談ノートに記録され、職員全員が確認している。苦情処理についても記録され、職員で話し合い、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動はなく、馴染みの職員によるケアを心がけている。2ユニットあるが、自由に行き来でき、協力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務体制を工夫して、お互いに研修に参加できる機会をつくっている。研修の報告は、月1回のミーティングで報告されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、薩摩ブロックの交流会に参加している。近くのグループホームの職員が見学に来られ、情報交換などをしてお互いに学びあっている。職員の要望もあり、地域以外のホームの見学も計画されており、同業者との交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用が決定してから、本人、家族の見学が多い。入居者は、馴染めるように家族の電話連絡や面会などをお願いするなど工夫している。利用を開始してからまもない方へも他の利用者との雰囲気大切に、職員が気配りして、声かけしている。地域の方からの利用についての相談も受けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	山菜の下ごしらえなど昔ながらの知恵を教えてもらっている。利用者と職員の会話の中でも子育ての話が出るなど、一緒に過ごしながらかお互いに支えあっている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族の意見や希望を聞いたり、日々の生活の様子や会話からも、利用者一人ひとりの思いをくみとるよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員、そして主治医、かかりつけ医の意見をもとに介護計画を作成している。		地域住民との交流をとりながら、地域の中で日常生活が営まれ、よりいっそう生きがいのある暮らしができるような計画作成にも期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者、家族、職員からの情報を確認しながら、3ヶ月に1回見直しを行っている。状態の変化に応じても随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、利用者の健康管理や本人、家族の要望に応じて、通院介助などの支援も行われている。台風の際は近隣の一人暮らしの高齢者へも声かけてホームでの受け入れをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医での受診を優先している。必要に応じて適切な医療が受けられるよう協力医療機関との連携をとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期は家族、かかりつけ医、職員と十分話し合いをもち、方針を共有し、対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないようにさりげない声かけや対応に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ・下膳など、利用者一人ひとりのできることを大切に声かけしている。利用者と職員と一緒に食事をしながら、料理や野菜の話などの会話がはずみ、食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望に応じて支援している。入浴の順番や二人での入浴など、楽しめるよう工夫している。夜間帯の入浴体制も検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物、野菜の下ごしらえ、畑仕事など利用者一人ひとりの力を活かせるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、外食、散歩など希望に応じて外出できるように支援している。年1回、大型デパートにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者は玄関から自由に入出入りしており、職員は利用者のその日の気分や状態を見極めながら、さりげなく声かけをしている。日中は鍵をかけないケアに取り組み、職員が見守っている。地域の方の理解もあり、利用者の外出に気づき、連絡を受けたこともある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練が行われており、救急連絡網も作成されている。日頃から地域の消防団員との連携を図っている。台風災害のときは食糧、飲料水など備蓄している。		避難訓練は行われているが、具体的な避難体制がない。災害時のマニュアルなどを作成し、職員がいつでも対応できる支援体制の整備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分、食事の摂取量を把握し、記録している。定期的に体重測定も行われている。肥満傾向の人には食事の内容、摂取状態にもさりげなく気配りしている。		栄養の専門的な観点からチェックしてもらうなど、栄養のバランスについても検討してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は天窓からの自然の光が入り、明るい。日差しが強さには遮光布を利用したり、テーブルに季節の花を飾るなど居心地のよい空間作りに努めている。リビングにはテレビ、ゆったりとしたソファがあり、利用者がくつろいでいる。畳の談話室もあり、思い思いに過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのもの(写真や位牌など)や希望を取り入れて、居心地よく過ごせるように支援している。		